

令和7年度学校経営方針

一中の継承と発展

1 本校の教育目標

自主・自立の精神をふまえ、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒の育成を目指して、教育を推進する

- ・自らよく学びよく考え、責任をもって実践する生徒
- ・礼儀正しく、誠実で思いやりの心をもつ生徒
- ・心身ともに健康でこれからの社会で役に立つ生徒

目指す学校像

一中で学んでよかった 一中があってよかった 一中に入れてよかった 一中に勤めてよかった
(生徒 地域 保護者 教職員)

具体的には

- ・生徒一人一人が自分の良さを発揮できる学校
- ・学習の基礎・基本を確実に身に付けさせる学校
- ・礼儀やあいさつ、言葉使い、など基本的な生活習慣を身に付けさせる学校
- ・教職員が自己の役割と使命を自覚し、協力して組織として力を発揮する学校
- ・地域、家庭、関連機関との相互理解と協力による開かれた学校

(令和7年度の取組)

☆不登校対応拠点校

☆コミュニティ・スクール

☆電子黒板活用(令和6年12月設置)

指導の重点

1 確かな学力

- ・日々の授業を大切に

- ・**4 5分授業の実践**（令和6年度より文部科学省研究指定）による平素の授業改善

平素の授業及び選択学習による、学習意欲と学力の向上

年間指導計画、評価規準の全教職員による共通実践

観点別評価の観点の趣旨の理解と見取りの視点、評価材料、評価説明資料の作成

指導と評価の一体化（適正で信頼される評価、定期考査問題）

「目黒区授業改善の手引き」「週ごとの指導計画」の活用

生徒の学習状況の教科間の共有

ICTを活用した授業の推進

学習指導員による学習サポート、放課後補充教室、土曜補習教室等へ積極的に参加するよう指導する。生徒の学習意欲の向上と学力の向上を目指す。

ねらいを明確にし、振り返り活動を取り入れた授業

一人一台の学習端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行う

思考力・判断力・表現力を養いながら深い学びへと導いていく

授業規律を確立させる（学級経営が重要）

→電子黒板、Qubena＜A I教材＞の活用

- ・個に応じた学習の充実

少人数を活かした効果的な指導を継続する

校内組織を工夫し、グループ制による学習体制

数学、英語のみならず、他教科でも少人数による授業を実施する

校内別室指導支援員配置モデル校（R5，6）としての取組の活性化

→令和7年度より 目黒区 不登校対応拠点校 として、担当教員配置

一人一人の学習環境を大切にする（家庭、専門機関と連携した校内体制の確立）

登校意欲、学習意欲の向上

- ・朝読書の充実

心を落ち着かせて一日のスタートが切れるように8時25分から35分まで朝読書活動を行う。

- ・特別支援教育を通して、個を大切にする指導の充実

特別な支援を必要とする生徒の理解に努め、つばさ学級、特別支援コーディネーター、特別支援教室支援員、SC、SSW、関連機関、保護者との連携を図った指導を進める。

生徒の特性を理解し、生徒にとって必要な配慮、支援を行う（合理的配慮、個人内評価）

授業時の声かけ、教室環境の整備（教室の前面に不要な掲示をしない）

相談部会を定期的に行い、情報の共有化を図る

若葉寮との教職員交流

2 豊かな心

- ・人権教育推進の継承

人権教育推進校としての取組を継続する

信頼関係を基盤とした、生徒一人ひとりを大切にする指導に努める

生徒、教職員の人権感覚の向上と差別意識の解消を図るための教育を進める

（人権感覚チェックシートの実施）

人権講話等により、普遍的な視点、個別的な視点の人権課題への取組

教科等における指導、日常生活における指導の充実

- ・人とかかわりを重視

一人一人のよさを認める指導を心がける

常に生徒の目線の高さに立ち、生徒の心に寄り添うことに努め、思いやりのある意欲を起こさせる

言葉かけを行い、自尊感情の醸成に努める

まかせる ほめる うけとめる（自己有用感から自己肯定感へ）

- ・命を大切にする指導

いじめは絶対に許さないという態度で接する

早期発見 早期対応 未然防止 情報の共有化

いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議の実施（2年生）各学級、一中としてのスローガン

自殺防止の取組

道徳科の授業の充実

- ・スクールカウンセラーの機能を活かす

配置されるスクールカウンセラーで、全校生徒の面談を実施

生徒の問題行動や人間関係について常に気を配り、S Cと連携し、生徒の声を真摯に受け止める

体制をつくり、保護者とともに解決の見通しや予防の具体策を保てるようにしていく

- ・環境整備、花いっぱい

教室の環境整備に努め、机の整頓や掲示物等の整理を行う

学校周りや学校花壇、生徒会花壇の整備を行い、地域と連携して花いっぱいの学校にしていく

3 健やかな心と体

- ・自己への挑戦

区連体へのフルエントリーを目指す

- ・学校2020レガシーへの取組

育成する5つの資質

ボランティアマインド 障害者理解 スポーツ志向 日本人としての誇り 豊かな国際感覚

パラリンピアンとの連携授業

- ・体力向上への取組（体力テストの結果から）

「めぐろここカラダシート」の活用（6月、10月、2月）

体力向上月間として、体育委員会を中心とした体力向上の取組を実施する

- ・部活動の活性化

部活動の入部率を高める

全教員が部活動の顧問として所属する

勝つことだけを目的とせず、生徒の連帯感、チームワークや責任感の醸成を図る

外部指導員や部活動指導員を活用しながら生徒の自主的・自発的な活動にしていく

- ・食育：望ましい生活習慣の形成

心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身に付けさせる

郷土料理、世界の料理、行事食、アレルギー対応、誤食の防止

4 開かれた学校

- ・CS（コミュニティ・スクール委員会の設置）
→令和7年度よりCS委員会の設置による地域連携の推進
地域の方々、関連機関との教育活動の連携
- ・学校だより、学年だよりの発行
学校だより、学年だよりを発行する 原則、毎月1日 学期末
保健だよりや給食だよりを通じての保護者、地域との共通認識の向上
- ・学校ホームページによる情報発信
- ・地域人材の活用
学校でできることには限界がある 保護者・地域と連携して積極的に地域人材の活用を図る
（駒場高校学校見学、第一商業体験授業、地域の方による集団面接指導等）
- ・地域行事への積極的な参加（地域貢献活動）
目黒川学がく掃き（4月11日）、こまばのまつり、地域行事への吹奏楽部や美術部の参加、菅刈住区の防災訓練への参加 への参加
地域からの要請は、可能な限り受け入れていく
- ・ホームページの充実と活用（組織的な取組）
ホームページの更新による情報提供 各学年担当が更新

5 働き方改革

- ・職員会議の資料や文書、実施計画、しおり等はデータで共有するようにし、効率化を図る
- ・職場の環境整備 気持ちよく働ける職場の継承と発展
- ・各自定時退勤日の設定を週に1回以上設定する
- ・都、区の取組を活かした組織的な勤務態勢
（スクールサポートスタッフ、副校長補助の取組等）

6 その他

- ☆45分授業・選択学習
文科省研究について
→A45分授業の工夫（各教科） B選択学習 の取組
選択学習は火曜日（15分）、水曜日（45分）を予定
自分で課題（教科または興味・関心のある内容）を選択